

## 第3回勾当台エリアビジョン策定検討懇話会議事録

日 時 令和2年12月3日(木) 18:00~19:40

場 所 TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール1

出席委員 岩間友希委員、姥浦道生委員(座長代理)、高山秀樹委員、舟引敏明委員、  
宮原育子委員(座長)

事務局 梅内淳まちづくり政策局長、郷湖伸也まちづくり政策局次長、  
松田智子まちづくり政策局政策企画部長、大森武宏まちづくり政策局政策調整課長、  
その他職員

### 1. 開 会

司 会： おおむね、定刻となりましたので、ただいまより、第3回勾当台エリアビジョン策定検討懇話会を開催いたします。

まず事務局より、開会の前にご案内申し上げます。

本日の新型コロナウイルス感染症対策についてでございます。懇話会開催にあたりまして、皆様のお席の間隔を広めに取らせていただいております。また、傍聴席につきましても、可能な限り間隔をあけて配置しております。

また、委員の皆様はじめ、お集まりの皆様には、マスクの着用や入室時の手指消毒をお願いしております。また、傍聴や報道機関の皆様には、受付での健康状態の確認と、お名前とご連絡先の提供にご協力いただいております。

なお、会場内は常時、機械による換気を行っております。十分な換気量を確保してございますが、適宜、廊下側の扉を開放する場合がございますので、予めご容赦いただきますようお願い申し上げます。

次に、本日の議事につきましてご案内申し上げます。

当初のご案内では、本日はビジョンの中間案をご説明し、ご意見をいただく予定としておりましたが、より十分な議論を重ねる必要があると考えまして、本日は中間案の前段階となる素案をご説明し、次回1月の懇話会で中間案へのご意見を頂戴したいと考えております。これにより、当初、1月の第4回懇話会を最終回と想定しておりましたが、3月に第5回懇話会を追加で開催させていただきまして、ビジョンの最終案に対するご意見を頂戴したいと考えております。皆様には追加でのご負担をおかけすることとなり、大変恐縮ではございますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上、長くなりましたが、開会前のご案内でございました。

それではこれより、進行を宮原座長にお渡しいたします。宮原座長、よろしくお願いいたします。

宮原座長： はい、宮原でございます。

これから、3回目の勾当台エリアビジョン策定検討懇話会を進めてまいりたいと思いま

す。どうぞよろしく願いいたします。

まず、議事に入る前に数点、確認をさせていただきます。

本日の懇話会ですが、非公開とすべき内容を扱う予定はありませんので、公開とすることにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

全 委 員： はい。

宮 原 座 長： ありがとうございます。それでは公開で議論を進めてまいります。

もう1点は、議事録の署名委員ですが、今回は高山委員にお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

高 山 委 員： はい。

宮 原 座 長： ありがとうございます。

## 2. 議 事

### (1) 勾当台エリアビジョンの方向性について

宮 原 座 長： それでは、次第に沿って議事を進めてまいります。

まず、今日の次第ですけれども、2番目、議事(1)勾当台・定禅寺通エリアビジョン中間案素案についてということで、今日、冒頭にご案内がありましたけれども、今日お示しいただいている中間案の素案を議論していきたいと思います。

前回の懇話会が9月でしたので、本日まで少し間が空いたということで、まずは前回の意見を整理した資料1に基づきまして、振り返りも兼ねて皆様からご意見をいただきたいと思っております。次に、資料2・3に基づきまして、中間案の素案について議論したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは事務局の方から、資料1のご説明をよろしくお願いいたします。

事 務 局： それでは、資料1につきましてご説明申し上げます。恐れ入りますが、着座にて失礼いたします。

まず会議の冒頭、司会からも申し上げましたけれども、ビジョンの内容についてさらに十分な議論・検討を重ねていく必要があると考えまして、本日はこの後、中間案の前段階ということになります。中間案素案ということでご意見をいただけてまいりたいと考えてございます。

それでは資料1のご説明でございます。

9月の第2回懇話会で頂戴したご意見を分類し、整理したものとなっております。たいへん多くのご意見をいただき、誠にありがとうございました。

まず資料の左上、エリアの範囲設定・ビジョンの名称等についてから、ご説明を申し上げます。

①から④にございますように、対外的知名度、今後の売り出し方、シンボル性、地理的なイメージ等様々な観点から、エリアを西公園通界限まで広げること、また、「定禅寺」や「定禅寺通」を名称に追記することにつきまして、ご意見を頂戴したところでございます。

その後、これらのご意見等を踏まえた検討を行いまして、ビジョンの対象範囲を西に広げ、名称に「定禅寺通」を追記するかたちで、「勾当台・定禅寺通エリアビジョン」の中間案素案を作成してございます。

なお資料にはございませんが、10月には、地元のまちづくり組織でございます、定禅寺通活性化検討会の幹事会に、前回の懇話会の資料を用いてご説明をいたしました。

幹事の皆様からは、「晩翠通で西側を区切らず、勾当台・定禅寺通としたことは大変結構である」というご意見ですとか、「地元のまちづくりの議論における力になるもので、歓迎する」といったご意見を頂戴したところでございます。

続きまして資料の左下、ビジョン全体の方向性について、でございます。

ビジョンの構成や論理展開につきまして、⑥の、エリアの特性やデータに立脚し、そのうえで少し壮大なことも盛り込んでいくべきというご意見ですとか、⑦の、居住者数や就業者数は増えているのに歩行者数が減っている現状について要因を考えるべきで、それがこのビジョンの答えになるのではないかとといったようなご意見を頂戴しておりました。

また、勾当台・定禅寺通エリアと他のエリア、都心全体とのつながりの議論におきましては、⑨の、40年前の人々の行動に関するご意見ですとか、⑩の、本市都心の見せ方・描き方に関するご意見を頂戴してございました。

次に資料の右上、コンセプト等についてでございます。

⑬の、他の様々なエリアとの連動性・つながりの中で整理し、コンセプトや理念、方向性等を定めるべきというご意見、⑮の、多機能なエリアだからこそ、現実のイメージとすり合わせ、何に重点を置くのか明らかにすることが重要とのご意見につきましては、このビジョンのコンセプト等に関する重要なご意見と捉えてございます。

また⑯の、仙台駅の方から人を連れてくる、または直接来てもらうことを意識すべきとのご意見、⑱の、職住近接とともに来街者にもアピールするという両方が重要だというご意見、⑲の、職住近接で楽しいところには、エリアの外からも歩いて来なくなる。重要なのは「楽しい」が先にあることで、「職住近接」とは、楽しいまちをつくるうえでターゲットは近くにもいるということ等、エリアの特性や他のエリアとの関係性に関するポイントとなるご意見を頂戴いたしました。

最後に資料の右下、エリア構想図等について、でございます。

前回の懇話会では、市民広場周辺と定禅寺通周辺の2つを重点ゾーンとした資料をお示ししておりましたが、⑳にございますように、東二番丁・勾当台通と定禅寺通の交差点付近こそ最重要であり、仙台の中心の中心と位置付け、注力することが重要とのご意見をいただきました。また、㉑の、勾当台公園から東へ、定禅寺通・錦町・花京院を経て仙台駅へと至るつながりに関するご意見、一番下の㉒の、本町や立町等のエリアとの連動に関するご意見も

頂戴しておりました。

また、少し戻りますが②の、定禅寺通のケヤキのある景観を維持していくという観点から植え替え等も考えていくべきとのご意見、③の、「公共施設は、主に民有地の活動を支え、誘導するために整備すべきとのご意見もいただいたところでございます。

資料1のご説明は以上でございます。改めまして、多くのご意見をいただき、誠にありがとうございました。

宮原座長：ありがとうございました。

前回の懇話会でそれぞれの項目について、皆さんからご意見をいただいたところですが、いかがでしょうか。改めて何かの追加ですとか、これはこういうことだった、というご意見がありましたらお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

姥浦座長代理：姥浦でございます。1点だけ、すみません。

②なんですけど、私が申し上げたと思うのですが、東二番丁通と定禅寺通の交差というよりは、一番町四丁目の商店街のつもりで申し上げておりましたので、もし間に合うようでしたら、修正いただければありがたいなというところで、よろしくお願いします。※

※仙台市ホームページへの資料掲載にあたり、当該修正を反映済。

宮原座長：ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。特によろしいですか。

こういった皆さんのご意見をいただいて、次に議論する中間案素案に、定禅寺通という名称が入りましたというお話もありました。

それでは、資料2の方に進んでまいります。勾当台・定禅寺通エリアビジョンの構成についてという部分で、皆様からさらにご意見をいただきたいと思っております。

それでは、資料2と資料3につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

事務局：それでは、まず資料2、勾当台・定禅寺通エリアビジョンの構成についてご説明を申し上げます。こちらの資料は、前回懇話会でのご意見を踏まえまして、ビジョンの構成を練り直したポイントのみをお示しするものでございます。

資料の左側には、ビジョン本編の項目・目次を記載しておりまして、9月の第2回懇話会でお示した素案に対し、今回の素案で追記や修正を行った部分を、下線付きの赤文字で表記してございます。

左側の上段のところ、ビジョンの名称でございますが、先程資料1のご説明でも申し上げましたように、「定禅寺通」という名称を追加してございます。下にまいりまして第2章のところ、以前はエリアの位置付けと、現状ということでデータを掲載するのみでございましたが、第2章の3番に「勾当台・定禅寺通エリアの課題」と項目を立てまして、現状の整理と課題の抽出を行ったところでございます。この内容につきましては、右上の吹き出しに記載しております。

こちらの吹き出しの中の、現状の整理の部分でございますが、前回の懇話会でのご指摘にもありましたように、勾当台・定禅寺通エリアでは、居住者や就業者数は増加し、高い開業実績を誇る一方で、歩行者通行量は減少しており、歩行者滞在密度も低い状況でございます。

また、補足的な情報といたしまして、人々の移動実態をアンケート等により調べる「パーストリップ調査」の結果を加えております。全市的な傾向ではございますが、本市では「通学」や「業務」など、主に何らかの必要に迫られて行う活動を目的とした移動の割合が減少しておりまして、歩行者に限らず、そもそもの人々の移動目的の変化がございます。

次に、課題の抽出でございます。現状を踏まえて課題を抽出するにあたりまして、歩行者通行量を前回の資料では平成2年以降のデータを載せてございましたが、今回さらに10年遡りまして、昭和55年まで遡り確認いたしました。詳しくは後程資料3で改めてご説明申し上げますが、②にございますように、勾当台・定禅寺通エリア周辺の歩行者通行量のピークというものが、平成2年頃であったということが確認されました。

平成2年頃、平成の初期という時期ですが、勾当台公園のリニューアルによりまして市民広場が誕生した時期ですとか、昭和の終わりにはなりますが地下鉄南北線が開業した時期、また近隣では141ビルの開業等がございまして、勾当台・定禅寺通エリアが大きく変化した時期と一致しております。

それから30年経過しているわけでございますが、今後の資産の老朽化対応におきましては、人々の移動目的の変化等も踏まえながら、まちに出る目的となる要素を、エリアとして形成・集積していく必要があると考えておりまして、これをエリアの課題として抽出してございます。一言で申し上げますと、課題は「目的地化」と言えるのではないかと整理してございます。

資料の左側にお戻りいただきまして、第3章の1番をご覧ください。

先程申し上げました課題につきまして、その対応に係る考え方を記載する項目を立ててございます。内容は資料の右側、中段の吹き出しでございます。

まず、目的地化を図るうえで、1つ目の◎のところで「つながりと差別化」を掲げてございます。他のエリアとのつながりを意識する中で、差別化を図っていくことにより、エリアだけでなく、都心全体としての魅力向上にも寄与していく必要があると考えてございます。

次に、どのように「つながりと差別化」を図るのかをお示ししておりますのが、その下の◎、「エリアの強みを活かす」でございます。これまで懇話会におきまして、勾当台・定禅寺通エリアの強みに関するご意見を多数頂戴しておりましたが、この中の点線の箱囲みの中にあるようなエリアの強みを活かすまちづくりが求められていると考えてございます。そして、その下の矢印にございますように、個性を伸ばすような、強みをさらに強化するという視点に立ち、勾当台・定禅寺通エリアのまちづくりの理念を掲げてまいりたいと考えてございます。詳細につきましては、この次、資料3でご説明を申し上げます。

それでは、資料3をご覧いただきたいと思いますが、ただいま申し上げた理念等のご説明の前に、9月の時点で既に記載しておりました内容について、主に変更のあった分を簡単にご説明申し上げます。

まず 15 ページ目をご覧ください。先程の資料 2 のご説明の中でも簡単に触れましたが、歩行者通行量の昭和 55 年のデータ、本市における人々の移動目的の変化について追加しております。一番上の折れ線グラフ、こちらの金曜日の歩行者通行量の推移をご覧ください。昭和 55 年の段階では、濃い緑色、こちらが一番町四丁目商店街の部分になりますが、3 万 2 千人弱ということで、黄色は名掛丁アーケードになりますが、こちらとの差は現在ほど大きいものではございませんでした。また赤色の仙台駅東西自由通路、こちらは昭和 53 年に供用開始されておる通路でございますけども、こちらについては、昭和 55 年の段階では調査対象地点にもなっていないかったということで、昭和 58 年、こちらが初回調査になっておりますが、その結果を記載してございます。

また、昭和 55 年まで遡ったことにより、上段の金曜日、下の日曜日ともに濃い緑色、このエリアの線のピークというものが、平成 2 年頃にあったことが確認されてございます。

少し飛びまして、23 ページをお開き下さい。先程の資料 2 でご説明申し上げました、現状の整理と、課題の抽出ということで「目的地化」というものを、本文として記載している部分でございます。

1 枚おめくりいただきまして、24・25 ページでございます。

つながりと差別化を打ち出すにあたり、別途検討を進めております仙台市基本計画、都市計画マスタープラン等とも整合を図りながら、本市都心の多様なエリアとその特性、また、勾当台・定禅寺通エリアとその周辺とのつながりを、1 枚の地図で表現してございます。

続きまして 26 ページをご覧ください。

26 ページは上段にはつながりと差別化を踏まえて進めていきます、エリアの強みを活かすということに記載してございます。これを踏まえ、その下、中段から 2 番として、「まちづくりの理念と 3 つの施策の方向性」というものを記載してございます。

まず中段の「まちづくりの理念」でございますが、あくまで仮のものではございますが、「杜が輝く、“交流”と“ゆとり”の中心を目指す」としてございます。その下、箱囲みの下の本文のところでございますが、勾当台・定禅寺通エリアは、様々な特色や都市機能を有しておりますが、課題である目的地化に向け、つながりと差別化を図るため、エリアの個性を伸ばす、強みをさらに強化するまちづくりを展開する必要があります。そこで、2 段落目の下線部のところですが、仙台の都市イメージの集積と、盛んな文化芸術・市民活動等を活かし、「杜が輝く、“交流”と“ゆとり”の中心を目指す」ことを理念として掲げ、さらに、3 段落目の下線部でございますが、次にご説明申し上げます「3 つの施策の方向性」に沿ったまちづくりに取り組むことで、このエリアや周縁部に住む人、働く人、そしてエリアを訪れる人が、豊かにつながるみどりの下、絶え間ない交流が生む時間を楽しみ、また、ゆったりとそれぞれの時間を楽しむ光景をつくりだしていきたいと考えてございます。

このことによりまして、人々の活動の促進とともに民間投資を呼び込み、将来にわたり選ばれ続ける、本市の都心の象徴たるエリアを目指してまいりたいと考えてございます。

続きまして 27 ページ、3 つの施策の方向性でございます。

1 点目が、「交流の機会の促進と場の整備」でございます。エリアの北側周縁・南側周縁とのつながりを活かし、エリアでの交流を意識した南北軸を形成・強化することで、多様な

主体の絶え間ない交流が、多彩な活動や協働につながり、その様子を多くの人々が楽しむ日常をつくってまいりたいと考えてございます。

2つ目は、「ゆとりある環境の整備と魅力の発信」でございます。「心地よい場所」や「みどりや景観が絵になる」というイメージの強化を意識した、定禅寺通に沿った東西軸を形成・強化することで、人々がまちなかに出て、テラスや庭のようにゆったりと、滞在することを楽しむ日常をつくってまいりたいと考えてございます。

3つ目が、上の2つを補うものとなりますが、「空間と活動の連続性の向上と公共施設等の利用価値の向上」でございます。多くの人々が日常的にまちに出て、都心各所を回遊するといった行動を支えるため、空間と活動の連続性を向上に取り組みたいと考えてございます。また、エリア全体が協働の舞台となり、人々の活動を支えるため、公共施設がエリアのまちづくりに貢献する場となるよう、利用価値の向上に取り組みたいと考えてございます。

続きまして、28 ページでございます。

28 ページでは、理念や施策の方向性からつながる、取り組みの検討の方向性を記載してございます。

施策の方向性の1と2、「交流とゆとり」に直接結びつく取り組みといたしましては、黄緑色の箱囲みの1つめの○印、多様な主体が協働したエリアマネジメント組織によるブランディングや空間の利活用、2つ目の○、文化活動や大小のイベント開催等の日常化、情報発信の強化、また少し飛びまして5つ目の○、仙台の象徴である定禅寺通の景観を未来につなぐ、ケヤキの保全のあり方などを記載してございます。

下の、施策の方向性の3につながる取り組みといたしましては、青色の箱囲みの1つ目の○、市役所本庁舎や市民広場等がシームレスにつながる空間の創出と運用、3つ目の○、将来に向けた公共施設・公共空間の新たな利活用方法、6つ目の○、公共交通機関の利用しやすさや案内等のアクセス性の改善などについて、検討の方向性を打ち出してまいりたいと考えてございます。

隣の29 ページには、実現を目指していく、エリアの光景に関するパース、それに合わせた社会実験の模様を数点、イメージとして掲載してございます。

続きまして30・31 ページでございます。

こちらの30・31 ページには、先程ご説明申し上げた取り組みについて、検討してまいります場所のイメージを掲載してございます。こちらにつきましては、上の方に書いてございますが、本日は素案ということで記しておまして、今後、ビジョンの中間案に向けて、内容の肉付けや具体化を図ってまいりたいと考えてございます。

まず、31 ページの中央をご覧いただきたいのですが、地図の南北にかけまして黄色の帯を描いてございます。こちらが、交流の機会の促進と場の整備に取り組む「南北軸」を表してございます。また、地図の東西に延びる緑色の帯が、ゆとりある環境の整備と魅力の発信に取り組む「東西軸」を表してございます。そしてその2つの軸が交差する市民広場周辺を、重点ゾーンと位置付けてございます。

次に、取り組みの検討の方向性でございますが、30 ページの左上の緑色の吹き出しのところになりますが、勾当台・定禅寺通エリア全体といたしましては、1つ目の○、先程もあり

ましたが文化活動や大小のイベント開催等の日常化、情報発信の強化、また3つ目の○にございます、エリアの魅力発信による企業やテナント等の誘致などを記載しております。

その下の緑色の吹き出し、せんだいメディアテーク・宮城県民会館周辺、さらにその下の青色の市民会館・西公園北端周辺、そして31ページにまいりまして、左上黄色の北庁舎周辺、また右下の青い吹き出しの錦町公園・錦町庁舎周辺、そして一番下の緑色の定禅寺通周辺と、それぞれの場所におきまして、記載のような、主に公共施設を活用した取り組みなどを、中間案に向けてさらに検討してまいりたいと考えてございます。

31ページの右上でございますが、赤文字で重点ゾーンと記載してございます。こちらにつきましては次の32ページ、33ページをご覧いただきたいと存じます。

32ページ上段になりますが、重点ゾーンということで、こちらにつきましても中間案に向けて、さらに記載内容に肉付け、具体化を図ってまいりますが、エリアの内外をつなぐ東西・南北の2つの軸が交わる市民広場周辺を重点ゾーンと位置付けまして、豊かにつながるみどりの下、交流やゆとりの時間を楽しむ光景をつくるためのコアとして、取り組みの早期具体化に向けた検討を進めてまいりたいと考えております。

取り組みの方向性としたしましては、中央に記載の吹き出しの1つ目の○、エリアの交流とゆとりの源泉となる、市役所本庁舎や市民広場等がシームレスにつながる空間の創出、2つ目の○、エリアマネジメントや民間活力の導入等による、日常的に人々が集い、楽しむとともに、活動を促進する空間や施設等の運用といったものを記載してございます。

また、32ページ下段には、現在調整中ではございますがイメージパースを掲載いたしますとともに、33ページの各種写真とともに、重点ゾーンの空間イメージを表してまいりたいと考えてございます。

続いて34ページでございます。

34ページには、第4章、勾当台・定禅寺通エリアビジョンの実現に向けて、といたしまして、都市計画マスタープラン地域別構想などの各種計画に、ビジョンの趣旨を反映していくこと、また、各種の施策に対しましても、それぞれに応じた形でビジョンの趣旨を反映していくことを記載してございます。

さらに、勾当台・定禅寺通エリアに限らず、都心全体を対象とする取り組みにつきましても、ビジョンの趣旨はもとより、検討過程において整理した課題や他のエリアとの関係性など、懇話会で頂戴したご意見等も踏まえ、実施してまいりたいと考えてございます。

なお、35ページには検討経過として、第1回懇話会からの経過を掲載してございます。

本日以降の部分は予定でございますが、1月中旬には第4回懇話会を開催し、中間案へのご意見を頂戴した後、1月下旬よりパブリックコメントを実施したいと考えてございます。その後3月中旬に、第5回懇話会を追加で開催させていただき、最終案に対するご意見等を頂戴してまいりたいと考えてございます。

長くなり恐縮でございますが、ご説明は以上でございます。

宮原座長： どうもありがとうございました。

資料2の勾当台・定禅寺通エリアビジョンの構成についてということで、左に目次案が出

てきております。今回、また新たに書き加えたところということで、具体的には素案の中の第2章の終わりの3のところと、第3章のところ、こちら辺が少し書きぶりもかなり変わってきたところもあるかと思えますけれども、皆さんからぜひ、重点的にご意見を願います。

課題の整理からビジョンの理念、それから施策の方向性ということで、23ページから27ページの辺りの部分。理念の落とし込みということで、ここはすごく大事だと思いますけれども、こういった書き方、言い方等でいいのかどうかということ。それから理念や施策の方向性の内容ということで、26ページから29ページの部分。またビジョン実現に向けた留意点や指摘というところで、34ページに盛り込んでいくべき部分。そういった部分から、ご意見、お気づきの点がありましたら、少しお話をスタートさせて、色々と議論を重ねていきたいと思えます。

いかがでしょうか。

岩間さんどうぞ。

岩間委員： すごくまとまっていて、すごい勢いでまとまっていくなと思いながら見ていました。

9月から1か月ぐらいの中で、私の中で出来事があって。GoToを使って東京から家族が仙台に遊びに来るということがありまして、すごく久しぶりに外からの目線で仙台を見たんです。

歩いたルートは、仙台駅からアーケードを抜けて一番町に出て、晩翠草堂で管理人さんからじっくりお話を聞いて、晩翠通を歩いて、メディアテークに行き、定禅寺通を通過して、三越から地下鉄に乗って仙台駅に帰るというふうに廻ったんですけど、家族の表情とかを見ている時に、外から来た人が受け止める地域の特性みたいなものって、説明してあげれば確かに「そうだね」となるけど、もう少しわかりやすく伝えた方が「なるほどね」となるのかなという印象があって。

その中で資料1のコンセプト等についての、特に⑬。仙台駅周辺だけではなく、様々なエリアとの連動性つながりの中で整理するのは良いことじゃないかということ、特に強く、これはすごい大事だなということを感じたという、個人的なエピソードで恐縮でした。

どう思われますでしょうか。

宮原座長： ありがとうございます。

勾当台だけがポーンと浮島のように存在するのではなくて、仙台駅との関係や、他所から来た人の目線等で考えてみると、もう少しつながりの部分を意識できるような整備もあるのではないかということですね。

舟引委員： ちょうど岩間先生の話につながるようなことなので、若干繰り返しになります。

議論の参考にと配られている、大きな、仙台駅を広げているようなこっちの地図を見ると、色んなことを考えてしまう。

焦点は勾当台公園から定禅寺エリアであることは重々、承知をした上で、先程岩間さんがおっしゃったような関係性の中で、ここのエリアをどうすべきかを説明しないといけない。

そうすると、この周辺のエリアが将来どうなるんだろう、と。どうなった方が良い、そうなるべきか、どこまでいくかは難しいですが、そういう関係性でこの図面を見ますと、今日の話の中では職住近接というよりは、都心居住だと思っただけで、仮にコロナが終息して、ポストコロナで仙台にビジネスなり、オフィスで人が来るということを前提にものを考えていくと、デベロッパー的視点で言うと、戦災復興、戦災を受けていないエリア、錦町一丁目から上杉三・四と書いてあるところ、ここの辺り街区の形、まち割りそのものは伊達のまち割りのままだが、戦災復興の所の方が街区1つの形が小さくなっている。

上杉や錦町のところは、1街区100メートル真四角ぐらいの大きい街区で、道路はそこそこあるが、これの何がまずいかと言うと、建築基準法上、接道がとれないので良い開発はなかなかできない。ただ、最近出てきているのが、地図の中で言うと旗竿的に道路を内側につくって、その両側に家を建てるような開発はあまりよろしくないんだけど、そこのいくつかの所をまとめて、マンション開発しているのが、このエリアの特色だと思う。ポテンシャルとして、そういう用地として、非常に重要なんじゃないだろうか。

実際は農学部の跡地にもマンションが建って、勝山館の北もマンション開発しているし、大手町の一番遠い所に黒いのが出来上がってきている。だから、マンションの需要や供給の意欲はそれなりにあると思うが、それを誘導して都心居住につなげる。その人達が遊びに行く場所はどこだろうかとすると、徒歩圏内で定禅寺通、勾当台に行ける所まで意識して、どうしても小さいところで絵を描いているくらいがあんだけども、そこに将来、仙台市が発展するための、東京圏ではできない都心居住ができるエリアを実現する可能性があるんじゃないだろうか。

そして、それを前提としてこの地図を見ていると、色んな夢が描けそうな気がします。

宮原座長：ありがとうございました。

大きな地図で見ると気づくことは、最近、マンションが勾当台周辺に建っていることです。先日もニュースで、コンパクトな間取りのマンションの人气が上がっていて、特に若い女性をターゲットにしたマンションも目立ちます。こういったマンションには関心が高いようで、働いている女性の人も、いま舟引先生がおっしゃった「都心居住」をしながら、賑わいのある場所にも近づけてというところと合っているかもしれません。

仙台は治安も比較的いいですから、女性が夜でも楽しめる部分では、新しい世界といいますか、使い方の部分ではイメージできそうなところはあるかなと思います。

いかがでしょうか皆さん。色々ご意見があれば。

高山委員：よくまとめていただいているなと思っておりますが、気になる点が何点かあります。

23ページの現状の整理のところ、就業者数も平成21年比で3,500人増加しており、ということで、14ページでどんな業種の方の就業者数が伸びているのかというデータがありますが、この中で医療・福祉が伸びている、増加率が高いということで捉えられていますけれども、やはり支えられているのは公務かなと。市役所、県庁、合同庁舎もありますので、そういう意味ではエリアの就業者数は、14ページの表を見ましても実数では公務の方が増えて

いますので、大きく支えていただいているのではないかと思います。

あと、色々と確認してみると、やっぱり平成2年あたりに141が開業したりして、確かに定禅寺通境界の人の通行量がピークだと思うんですが、その後に減っていく要因は、よく見てみると、大型店では、1998年にアエルが出来て、2008年にパルコ、エスパル2が出来て、2012年にヨドバシの2号館が新しくなって、2016年にパルコ2、エスパル東館が出来て、店舗面積で言うと、7万5千㎡くらい増えているような感じなので、休日はそちらの方に人が流れるのは仕方ないという状況になっていますし、郊外も1997年以降21店舗、だいたい50万㎡くらい増加していて、その他にも郊外のロードサイドとか含めると、相当な面積が増えている、やはり中心から郊外への人の流れも出ているので、そういったのも通行量に影響しているのかなと、特に休日は。

あとオフィスビルも2009年以降、大型のビルが竣工してしまっていて、特に広瀬通から南と、東二番丁より東、仙台駅の東口も含めたエリアに大型のオフィスビルとかも竣工していて、2010年ですとトラストタワーなんかも37,902坪もありますので、そういったものとか、色々とオフィスビルも駅の方に段々シフトしている。そうすれば当然、古いビルからテナントが移動するというのもあって、そういうのが通行量にも非常に影響してきているのかなと感じていて、そういう中で目的地化するというのは、相当、頑張らないとなかなか目的地にはできないなと、ちょっと感じています。

宮原座長： ありがとうございます。

高山さんからのデータのご紹介とお話をお聞きしていて、駅の方にずいぶん色々投資が入って、大規模な床面積のものがシフトしてきているという、それが勾当台エリアの辺りの人の流れも変えているのではないかとということが分かりました。

姥浦座長代理： 私も全体として非常によくまとまっていて良いなと思いました。1つ、細かい話ですが、26ページ目の2番の下から2段落目、「光景をつくり出す」というのがあるが、光景は結果としてできるもので、その前までがとても重要なのではないかという気がしたので、目的と結果として出来るものとを、もう少し分けられると良いかなという気がしました。

全体として、28ページの方の、取り組みの検討の方向性にまでつながる話ですが、この計画はたぶん大きく2つ目標があると思っていて、1つは仙台市としてどうするのかということ。市役所の内部の調整に使う、プラス、意思表示というか、そういうものが1つと。

もう1つは民間の人達にこういうことをやってもらいたい。そうすると、その2つがくっつくとこんなにいい街になるよということが、この計画の大きなコンセプトというか流れだと思ってしまっていて、そういう中で、特に民間に何をしてもらいたいのかというところが、もう少し書いてあるといいかなという気がいたしました。それらがつながるとこうなるよ、ということです。

どちらかという、今書いてあるのが全体としての公共施設をどうするということが中心に書かれてしまっていて、民間の施設についてどうなのと。結局、28ページの方になってしまうのですが、例えば青のところ、「市役所の本庁舎や市民広場等がシームレスにつながる空

間」とあるが、おそらくシームレスにつながるべきは、公共施設だけではなくて、民間と公共の空間なり、道路空間なり、広場空間なりという、そういうところもぜひ一体的に、民間も開発する時は考えて下さいという話だと思います。そういう民と公共空間が一体となっていくという話やもう少し民間の開発が、リノベーションも含めて、こういう形で行われると、プラス公共もこういうふうにする、それで全体としてこうなるといいう書き方になるとさらに良くなるのではないかという気がしました。つまりは、デベロッパーの人達を、ここで投資しようかなという気にいかにさせるか、もしくはここで営業する人、飲食でも小売でも何でもいいのですが、その人達がここでやろうかといかにして思っていたかのかといふところかと思しますので、そういう形に全体としてなるといいなという気がしました。

宮原座長：ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

舟引委員：引き続き、他にちょっとご検討いただきたい点をいくつか申し上げます。

24・25 ページに図が描いてあって、定禅寺通のすぐ南のオレンジ色のところで「昼も夜も楽しめる個性的なスモールエリア・界限」と書いてあるが、これは、ここだけがそうなのでしようかというクエスチョンです。

先程、高山さんがおっしゃったような新しい床が出来て、この辺りの相対的な地位が下がった。買物では当たり前のことですが、欲しいものが売っている所に行くのであって、定禅寺通・勾当台界限に欲しいものが売っているかということ、そこはクエスチョンマークになっていますし、いつもお昼に市役所に呼ばれて会議をすると、お昼ご飯を食べる所を探すけれども、残念ながら国分町界限含めて、お昼は何もやっていないという世界のまちがあって、そういうところは逆に大町の辺りに行くと、ちょこちょこ面白い試みがある。

新しい大きな床をもう一度ここに持ってくるようなことは簡単な話ではないので、そうするとスモールエリア的なサービスの供給。昼もお店がやっていて、お昼ご飯食べに行こうよというようなことが、勾当台・定禅寺通の中だとか、その周辺の南側だけではなく、東側や北側もかなり大きな役割を果たしながら、それがあって初めて、このエリア全体の魅力が上がるのではないかというところを、少し考えていただきたいのですが、それが31ページの右の下にウォーカブルシティのポンチ絵が国土交通省の資料と書いてある。

よくよく見ると、ウォーカブルの隣にアイレベルと書いてあって、このアイレベルのコンセプトが、歩行者の空間のレベルに色んなお店とかアクティビティがあって、かつ、ダイバーシティは歩いている人なのか、商業的な物のダイバーシティなのかかわからないが、歩かせることと、周辺のしつらえをコントロール、誘導するというのがセットで、それがオープンにつながっている。なんとなく、これをそのまま拝借していきたいような感じがします。というのが、気になる点の1つで、是非これを考えて上手く盛り込めるといいのではないかと思うのですが。

それと、さっきの24・25ページの図の、よく見ると、黄色の軸と緑の軸と書いてあるが、これが何か意図をもって書かれているのだろうか。書いてあることは間違いではないと思うが、むしろ基本的な方向性でこのスケールのレベルで言うと、回遊性のことにもここで触れ

ざるを得ないのではないかと思います。

さっき言ったスモールエリアみたいな話は、住んでいる人やそこに働きに来る人のためのアクティビティであって、それがあるとまちが楽しくなるという世界ですが、どこを歩いて、どう見ていくのかということ考えた時に、仙台駅をメインに、一番の交通の結節点から見る、とすると、そこからどういうルートでどんなふう歩いていくんだ、と。

色んな施策で回遊性とは言っているが、どういうイメージでどこを意識しているのかというのは、ここでも他の何かのプランで整理されているのだったら再掲していただいてもいいですし、そこを書かないと、エリアの特色というか性格がきちんと出ないのではないかと思います。

宮原座長：ありがとうございました。

今までのところで、事務局側の方でコメントなどございますか。

事務局：ありがとうございます。最初のところでお話がありました、前にも岩間委員からございましたけれどもこの定禅寺通と勾当台の辺りが、人が増えて、住む方が増えておりまして、先程舟引委員がおっしゃったように、上杉などにはマンションも増えております。

目的地化といった時に、駅前のような大型の買物施設を誘導してくるのは難しいのですが、住んでいる人達がどんどん増えていて、その人達がゆったりくつろげるような、緑を楽しみながら、ゆとりがあるが暮らしの中で出ていくことを目的化できるような場所を、上手くつくれないかなということが、まず想いとしてあって、つくっていきたい。と考えています。

その前には、先程からご指摘があるように、民間の皆様の投資というようなものに、どう上手く結びつけていくかというのが非常に重要な視点だとは思っていますが、まだ上手く書けていないし、なかなか難しいところもあるなと思いますが、そのあたりを上手く表現できたらいいなと思っております。

定禅寺通の検討会、民間の皆さんと一緒に市も入ってやらせていただいているのですが、やはり700mの幅がある定禅寺通の中で、立町の方、居住している方が多いところでは、子育て中の方も安心して歩けるとか、お年寄りの方も多いですし、東二番丁の西側といいますが、国分町に近いエリアはやはりナイトタイムの暮らし方とか、夜市みたいなものが出ないかなとか、そういったようなお話があって、その場合には定禅寺通の表通りだけではなくて、その南側や北側の裏通りや横丁のようなところを上手く連動させていかないと、そういうふうにはならない。ご指摘があった個性的な界限みたいなものを、定禅寺通の検討会の皆さんもお考えになっている部分がありますし、上手く地域特性に合った誘導などが重なって、買物に行くだけではなく、暮らしている人達が出て行きたくなるようなまち、駅からの連動の部分も回遊性を確保する工夫も、難しい所もありますけれども、うまくそういうものが組み合わせるといいなと思ってますし、ウォークブルシティのような、国の方もこういう取り組みを強めようと言われてはいますが、そういうものともすごくマッチしやすいエリアだし、取り組みとして期待されているのかなと思っておりまして、今のご指摘があった

ようなところをどう取り込んでいけるかというのは、しっかりと考えていく必要があるなと思って伺っておりました。

宮原座長：ありがとうございます。  
他にいかがでしょうか。

姥浦座長代理：強制するわけではないですが、書き方の例えばの話で、市民の本当の普通の人に読んでいただくということまで意識するのであれば、例えばここで働いて、夕方になるとこうなってみたいな、「Aさんの1日」のようなストーリーみたいなのをいくつか想定して載せたものがあると、地図の中でのエリアの役割分担では分からなくても、人の目線で、先程岩間さんがおっしゃったような形になると分かりやすいかなという気がいたします。これは見せ方というか、その話です。

宮原座長：ありがとうございます。  
岩間さん、何かありますか。

岩間委員：このまま見せ方の議論に突入していいのかなで言うと、たぶんその議論だけでも色々出てきそうだなと思っていて、私自身は最初の The Greenest “Center” というところから、ちゃんともう一度考えようとなったことを、すごい大変だっただろうなと思いながら、とても良いことだと思っています。

姥浦先生もおっしゃっていましたが、上位概念の総合計画で The Greenest City というのを使っているのは、きっと総合計画は仙台市外の人にもすぐく目にする機会が多いということも考えると、そういうエンジンになりうる強力な表現を使うのも心惹かれるなと思って、The Greenest City でいいな、と思っています。

それが勾当台・定禅寺通エリアになっていくとちょっと具体的になって、特に仙台に住んでいる人達からすると、それこそアイレベルで、あそこの通りがどうだということになるので、もう少し、総合計画の中間案へのフィードバックにも色んなものがありました、「分かりやすい表現がいい」というご意見をもう少し取り入れてあげてもいいのかなということは、強く思いました。

それでいった時にもう一つ、ビジョンは2030年の話だと。その時に、先程皆さんがお話をされていたような、その辺に新しい床が出来ていてとか、この辺に人が増えていてとか、実際にどうなるかはそれこそ専門家じゃないと分からないので、きっとこうなっているのではないかという予想のもとでこういうビジョンになりましたというのを、ちょっとどこかに軽く書いてあげたらいいのかなと思ったのと、定禅寺通などを使っている主役は誰で、人が主役とか、そういうような言い方だとイメージがしやすいと思いました。

宮原座長：ありがとうございました。  
他にいかがでしょうか。

舟引委員：表現の話で言うと、こういうビジョンだとか、ガイドラインの文章というのは、行政が出すというのは、ある種の「規範」。難しい言い方かもしれませんが、例えば右の方向に行こうか、それとも左斜めに行こうかというふうに、行政が仕事をする時に規範があると、その規範に出来るだけ近い方向へと動かしていく役割があると思う。なので、どうしてもこのくらいのレベルになると、ある程度のあいまいさはぬぐえないけども、一つ一つの言葉がロジカルに、かつ何らかの方向性を示しているような言葉でちゃんと重なって来ないといけない。

そういう意味では、かなり分かりやすい文章にはなっているが、例えば26・27ページを見ると、27ページの3つの交流の機会、ゆとりのある空間、活動の未来は、極めてわかりやすく明解に書かれているので、この言葉はよく分かるが、一方でそれをまとめた時に26ページで杜が輝いたり、ゆとりに中心があったりという、若干日本語として怪しいなど。

ただ、気持ちはすごく分かる。ここに込めようとしているもの、今までの議論で、なんかのコアになるという表現でもいいかもしれないが、その部分の曖昧性をちょっと少しでも除くような形にしていくと、分かりやすくなるのではないかと、表現についてはそんな感じがしています。

宮原座長：ありがとうございます。

私も26・27ページの辺りがとても気になっているのですが、やっぱりまとめていただいている案、28ページもそうですが、方向性としてということで、本当にここは大事だと思うんです。ビジョンの中で、先程岩間さんがおっしゃっていたように、ビジョンはこれからの夢やあるべき姿を描いていくという、仙台はもっとワクワク出来て、素敵な暮らしが展開するという部分が、もう少し表現できたらいいと思っています。

皆さんはどう思われますか。

岩間委員：舟引先生がおっしゃるとおり、多少の曖昧性は残しながらも、仲間がつかれるようなメッセージの方がきっと良いんだろうなと思って、そこで言う「杜が輝く」だと、主役は人じゃなくて杜なのかなとか、行政感が出すぎているメッセージかなと思って。

例えば私自身が日ごろ、交流スペースなるものを運営していて実感するんですけど、場をつくって、「ここは交流する場所ですよ」と言っても、絶対に交流は生まれません。そこに人が入って初めて、会話して、出会って、商いをして、そういったアクティビティがあって初めて交流と言えるので、それを抜いて交流というものを先に出してしまうと、すごく行政っぽくなるのかなと思います。

宮原座長：はい、ありがとうございました。

もう少し、皆さんのご意見をうかがいたいです。今日は素案なのでまた次回、意見をもとにブラッシュアップしていただきますので。

先程姥浦さんがおっしゃったように、公の部分のこれからの整備の方向性にも関わるし、

一方で民間の方たちもこのエリアにどうやって自分達も絡んでいこうかという関心はすごく高いと思いますんで、そういった方達にこたえられるようなビジョンというのが、ものすごく大切になると思います。

高山委員：あるデベロッパーさんにちょっとお伺いしたら、晩翠通から西側ではなかなか、大きな投資は厳しいという話を聞いたことがあって、そうすると晩翠から西側というのは、先程事務局からも話があったように、個性的なスモールエリアの延長ではないんですが、リノベーションとか、今色々準備されているエリアマネジメントのようなものを通じて、そこにジェイコブスとかが言っているような、色んなものが噛み合ったエリアを、つくっていくしかないのかなと。そこが裏原宿ではないですけど、表以上に裏の方に人が集まったりしますので、そういう個性的な何かを、ビジョンを描いてそういったものを誘導する、施策的なものを絡めていく必要があるのかなと感じています。

宮原座長：ありがとうございます。

いかがでしょうか。今回挙げられている、南北軸と東西軸という、その考え方はいかがですか。

舟引委員：軸と矢印があって、24・25ページの軸は何を表しているのか分からないというところは、申し上げましたが、それに合わせていくと、33・31ページのところの矢印。矢印って、必ずデスティネーションがないとだめ。

これは、仙台市役所のオープンスペースを南北に繋げていこうという意思は非常に良いと思うが、北の何と繋げるのかというターゲットで、先程申し上げたように、そこの都心居住の人達を繋ぐのか、はたまたその上の、木町通当たりの、木町通の小学校や公園だとか、住んで周りを見ていると、非常に上杉公園や勝山公園だとか、やっぱり具体的な繋がりイメージをもった矢印を書いて欲しいと思います。

西公園の方の矢印はよく分かりますし、右の矢印も、この間、私が申し上げた事を言うと、ちょっと今の定禅寺通の延長と花京院のところを上手く繋げて欲しいなという感じはするが、関係性を矢印にきちっと表示して、矢印のデスティネーションはどこかをある程度意識した上で、軸としては大きなメインの軸はある、それとさっきの回遊性をどう組み合わせるか、一つの絵の中である程度、表現できるのではないかと思います。逆にそう表現した方が、分かりやすく捉えられるのではないかと思います。

宮原座長：ありがとうございました。

姥浦座長代理：私としては非常に分かりやすくまとめられていると思います。特に30・31ページ。ただ、言葉として、南北軸や東西軸は良なくて、何を指すところなのかということの方が重要だと思いますので、その特徴を書かれた方がいいという気がしました。それをドーンと地図の方にも出した方がいいのではないかと思います。ということで、例えばですが、東西はゆとり軸と書い

て、あまりゆとりのない所から来て、そしてここにゆとりの空間が広がっていて、それで一度落ち着いて、ふーっという感じの事があり、逆に南北軸の方は交流の軸ということで、そういうところに人が集まって来て、賑やかに元気に楽しくやるという。基本的には表現の工夫でそういうイメージがつけられると思います。

宮原座長：ありがとうございます。

軸の目的といいますか、それは述べられていますので、それをしっかりとここに入れていくということが、大事なかなということです。

私も気になったところを話します。改めて、26・27ページのまちづくりの理念のところを見ると、前は仙台市の基本計画に沿って、The Greenest という City である仙台というところの Greenest を取ってきて、The Greenest “Center” とか “Core” になったんですが、それだけを理念に置いても、一体何をするのかという動きが見えないし、冒頭のこのビジョンがどうしてほしいのか、このビジョンをもとに、どういうまちづくりしてほしいかというところにつながるような言葉になっていないと感じがしました。

今回の素案では、まちづくりの理念として、「杜が輝く“交流”と“ゆとり”の中心を目指す」という言葉に置きかえられています。この部分については、交流とゆとりというのは大変重要な要素だと思いますが、まだ具体的な動きがわからないところがあります。

勾当台付近でマンションを建設しているデベロッパーや不動産関係の人達は、このエリアにどういった期待を持って、人を住ませようとしているのでしょうか。マンションの居住者募集の際のチラシのキャッチフレーズなどを見てみると、「都心」であるとか「緑」という言葉が多く出ているように感じられます。これはデベロッパーさんの勾当台に対するイメージの一部とも言えますね。素案のキャッチフレーズの「杜が輝く」はそのイメージに該当するかなとは思いますが。

今後30年とか、長期的なスパンで見たときに、仙台の素晴らしい緑の環境を保存しながら、勾当台エリアのイメージとして緑や景観が絵になってくると、他所から来た人もこの勾当台のエリアの緑に囲まれた中で、近隣に居住する人達が散歩したり、カフェで楽しんだりする姿を見て、とてもうらやましく思うのではないのでしょうか。緑と、人々がくつろぐ風景自体が、仙台の都市観光の大きな目玉のひとつになると思います。東北のこの都市では、ゆとりをもって豊かに暮らしているという景観を、このエリアでイメージ付けられたらいいかなと思っています。ですので、私が想起する勾当台エリアのキーワードは「みんなの庭」、「ガーデン」です。

庭とかガーデンというのは、皆さん、ご自分の家のお庭づくりを大切にしますよね。庭の緑を大切に、自分達の暮らしの景観をつくっていく。他所の人も、そういった美しい庭を見にやってくる人達もいます。ですので、勾当台・定禅寺通エリアのビジョンに「ガーデン」や「庭」というワードが入ると、民間の方でもこれから開発や投資をする際に、このエリアは市民の庭、仙台市のガーデンだからと、ビジョンの言葉に合うような開発や景観のつくり方を考えてくださるようになるのではないのでしょうか。

例としてガーデンをあげましたが、そういったもの、皆が、仲間がつくれる、庭づくりで

仲間もつくれる、他所からも人がやってくる、だから住んでいる人も場所を大事にしてい  
く、そういった言葉がここに入ってくる事で、色んなメッセージ、仙台市としてのビジョ  
ンのメッセージが込められるのかなと思いました。

岩間委員：宮原先生のお話にすごく共感しました。

一つ、私はエピソード重視の人間なので、自分自身が定禅寺通の遊歩道でマルシェを開催  
して、お米を炊いた時の、主催者になった時の実感です。今もそれは少なからず開催はされ  
ていますが、その時の主催者の実感として、遊歩道を使って、ここを使ってという気持ちは  
わかるけど、沿道のお店の人達にお尻を向けているなと思ったんですね。あとは、出店して  
くださるマルシェの商いをやる人達から、両脇を走る車の排気ガスで、マフィン売るのも  
「うーん」という声があったり、なんとなくにやりたいことはわかるけども、思いやりがな  
い空間だったりとか、一体感というか、沿道の事業者もそのマルシェを歓迎しているとか、  
そういう空気はまだつくりにくいなという実感がありました。

その中で、宮原先生がおっしゃっていたような、そこに集まる人たちが庭として、そこで  
つくるイベントみたいなものを自分事しているというか、一体となってイベントをつく  
る。せめて、そのイベントいいねと言ってくれているような雰囲気をみんなでつくっている  
空間だという絵が2030年に描けたら、それは立派な観光資源だと思います。

宮原座長：ありがとうございます。

舟引委員：まず、宮原先生がおっしゃったガーデン。有名な話だがシンガポールを思い出してしまっ  
て。当初のスタートで、まちづくりとか国づくり。Garden Cityというスローガンを昔  
の人達が掲げて、一生懸命公園をつくって、緑をつくって、その価値が海外的でかなり評価  
されたが、20年くらい経った時に、スローガンを変えて、City in a Gardenというスローガ  
ンに変えて、庭っぽいまちではない、まちそのものがガーデンの中にあると言って、より一  
層政策を進めて、その結果と直接的な因果関係があるかは別として、アジアのビジネスセン  
ターになったということも、手段としてはありうるもので、それをここにどう落とししていくか  
というのは、かなり難しい問題ではあるけれども、一つのヒントとして、何か心が込められ  
るようなことがあると良いと思います。

あとの岩間さんの話で言うと、これも難しい課題だが、このエリア内で車優先社会とどう  
戦うかというところが必ず出てきて、ある程度そこをやっつけるというのは変ですが、二律  
背反みたいにしてはいけませんが、そこと戦って行って初めて安心して都心で居住ができて、  
色んな商売ができてというところにつながるの、そういう歩行者を優先するようなコンセ  
プトをこのエリアにかなり持ち込む、どこまで行政としてかけるかは難しい問題ですが、  
それはかなり他のエリアや都市と差別化をするためには、かなり大きなポイントになるのか  
なと思います。

宮原座長：ありがとうございます。

高 山 委 員： 26 ページの理念の下の図のところ、将来にわたり選ばれ続ける都心の象徴たるエリアとありますが、ここが仙台市内の中で、勾当台・定禅寺エリアが将来にわたり選ばれ続ける象徴たるエリアなのか、それとももっと大きく色んな都市と比較する中で、仙台が選ばれるための都心の象徴たるエリアなのか、両方の意味もあるのかなと思いつつ、対外的に選ばれる象徴たるエリアという、呼び込むなら駅前になってしまうのかなとか、その辺の表現がもう少し具体的な方が良いのかなと思いました。

宮 原 座 長： ありがとうございます。

ご質問という形で、この 26 ページの一番下のフロー図の到達点として、将来にわたり選ばれ続ける都心の象徴たるエリアへという、ここがどこを指すかというところ、お答えいただければと思います。

事 務 局： ここで指すエリアというのは、今回のビジョンの対象としております、勾当台・定禅寺通エリアということになりますが、将来にわたり選ばれ続けるという部分に関しては、資料 3 の 2 ページをご覧くださいと思います。

ここに策定の背景ということで、上段の方に書いてございます。策定の背景の最後の段落、コロナウイルス感染症の流行によってというところで、大都市圏から地方への関心が高まり、それに伴う都市間競争の発生等と、そういうことも含めてこのビジョンを考えていきたいという趣旨が前提としてあります。そうした中で、都心全体の中での勾当台・定禅寺通エリアをいかに輝かせていくかという部分で考えました時に、仙台というまちが都市間競争の中で勝っていくということにもつながるような、エリアのあり方というのを考えていきいと、そういう趣旨で書いてございます。もう少し分かりやすくというご指摘と受け止めてございます。

宮 原 座 長： この 2 ページの一番下のところに、同じように将来にわたり選ばれ続ける都心づくりで、選ばれ続ける中身が、多彩な活動の促進であるとか、民間投資を呼び込むという、こういった部分が中身であるということですね。

ありがとうございます。

舟 引 委 員： 28 ページとさっきからずっとにらめっこしているが、書いてあることが間違いであるというつもりは全くないのですが、3つの分類がいまいちピンとこない。個別にみると、将来こうなったらいいなという目標と、これからこういうふうにするんだという手段と期待値みたいなものが、ごちゃごちゃに入っていて。施策の方向性の 1 と 2 は何が違うのだろうと。

場が整備されて、そこで何かやる、ということのしつらえ方としては分かるので、このレポートの一番、主たる目的が公共空間の方向性を探るということであるのであれば、それまで色んなことをやってきた、この前の 1・2・3 というところから導き出される公共空間の可能性が、方向性がある、公共空間と連続する民間の空間の形成の方向性がある、そし

てその空間の上に乗ってくるアクティビティをつくっていくための組織の話とか、ソフト的な活動の話とか、そういう起承転結が流れていくような言い方をすると。

公共と民間の役割分担というのがごちゃごちゃになっている部分もあるけど、公共は確実にここまでやる、民間のこの部分は改めて支援をします、ただ組織づくりや活動についてはある程度、お任せをせざるを得ないが、最終的に目標、交流とゆとりの中心ですかね、これになっていくんだというような整理の仕方を工夫すると、分かりやすくなるような気がして、ずっと考えていたんですが、今一つ答えが出ない。そんな感じで整理されるといいかなというふうに思います。

宮原座長：ありがとうございます。

いかがでしょうか。あと、34ページのところに、ビジョン実現に向けた留意点や指摘ということで、今も色々とお話が出たかと思いますが、ここにいくつか書いていくということだと思いますが、今の時点で触れておきたいものは何かございますか。

高山委員：タブーなのかもしれないですが、県民会館も移転が決まり、今回音楽ホールが青葉山公園の方に建設される見込みと、市民会館と戦災復興記念館も廃止するという方向性というのは、このビジョンと相反する施策かなというのが気になっていまして。以前あったような、病院などを郊外に移して中心市街地が廃れていった、そのミニチュア版というか、そういうのを感じていまして。

かといって、代替地がどこにあるのかという話はあるかもしれないですが、年間で市民会館は30数万人、戦災復興記念館も10何万人が利用者がいます。そういったものが、今検討されているエリアから、戦災復興の方はちょっと外れていますけど、無くなってしまうというのが、ちょっと気になるなというのがあります。

宮原座長：タブーではないです。大丈夫です。大丈夫ですと私が言うのもなんですけど。

本当に凶らずもといえますか、今この勾当台・定禅寺通のビジョンの議論している最中で、仙台市の大きな様々な公共施設の行先や方針というのでも議論されはじめてきています。そのことに対して、例えばこのビジョンで何か触れておく必要はないかとか、どうでしょう。

姥浦座長代理：まず計画が出来てから、計画が有効になるというのは正確な意味ではそうなのかもしれませんが、当然計画をつくっている段階でだいたいどういう計画が出来るといって、考えてきたことが、計画が完成していないから関係ありませんという話にはならないと思いますので、市の総合計画でもこちらに書いてあるように、文化交流、市民活動の場としての勾当台・定禅寺通ですし、ここでも文化というのはかなり書いてございますので、それをまったく無視して物事が動くことはないかと思えますけれども。

先程も申し上げましたけれども、この計画は大きく2つの役割があると思っていて、1つは行政の中で調整、これをもとに調整を行っていく話だし、もう1つは民間の人達に皆さん

がこういうことをやってくれたら、街全体がよくなるという話だとした時の、前者の役割はもうすでに持ち始めていると私は勝手に思っていますので、そんなおかしなことにはならないと思っています。

少なくとも、検討しましたという、その検討がどういうものかというところは、それこそ市長も美術館の時に市民を交えてやりなさいと、知事におっしゃったわけですから、そこはあまり心配する必要はないと思っています。

宮原座長： どうでしょう。事務局からご意見お伺いしましょうか。

事務局： 宮城県さんも含めて検討の真っ最中ですが、市民の皆様を含め非常に関心の高いもので、連日地元紙の紙面を飾っておる状況でございます。

そういう意味では震災があって復興をしていたので、都心部の高度成長期からつながる、戦災の後ずっと定禅寺通にケヤキが育ってきて、まちは育ってくるけど、建物自体も色々と老朽化してきて、物理の問題もあるので、ある程度、更新をかけていかなければいけないというのは間違いない中で、この地域を含めて、都心のそういった施設のあり方をどうしていくかということは、非常に大きなテーマだと、宮城県さんとも協議をしておりますが、同様に思っていると思います。

建物にも限界があるので、更新をしなければいけないということを前提にしながら、市役所の本庁舎の建て替え等も議論が進んで、設計者さんが決定するという段階ですが、中身自体はこれから設計の段階でも検討は続きますし、低層部から市民広場をどういうふうに一体的に使っていくかという議論についても、並行して行うことになっています。

それと定禅寺通がどうつながるか、勾当台公園や西公園の方もどういうふうにつながるかということですが、西公園・市民会館のところも仙台市の建物ではありますが、上には URさんの住宅もありまして、関係者との調整も必要ですので、このビジョンの中で示せるような方向を、舟引委員からもありましたが、物理的な更新がかかる時に、市としてどのように考えていくかとか、宮城県ともこれからこういう感じで協議させてもらいたいとか、そういったことをお示しするのがビジョンの役割だと思っていますので、姥浦委員がおっしゃられましたように、そのあたりは今までのご議論もそうですし、これから最終案が出来上がっていくものの、その考え方を基盤としながら、次の更新、次のまちづくりを詰めていくことになるかと理解しております。

宮原座長： ありがとうございます。

いずれにしても、本当に今、目の前で変化しつつある仙台市内の様々なことの、方向付けのような意味では、このビジョンはとても大事な議論をしているところだと思います。

舟引委員： 本質的な話ではありませんが、29ページと33ページに写真が沢山載っています。ただ、今の段階ではとりあえず載せてみましたというふうに見えるのですが、ここにどんな事例でどんな写真を、どういうふうな意味で載せるかということも、お考えいただいた方がいいと

思います。

夜のイメージ、と書かれて出てきても何を言いたいのかわからないこともありますし、それぞれの写真にきちんと意図が込められる、込めてなければ込めた方が良く思うし、33ページでアオーレ長岡の例が載せてあるのは、これはどこで何をするつもりなのかというふうに考えざるを得ないので。道路をすっ飛ばした事例という意味ではそうですが、パークレットの話があるのであれば、このような道路空間を使うような話を引き続きやるのか、やらないのかという政策判断も写真の使い方イメージが変わってくると思いますので、全体の構成を整理された段階で、よりイメージが沸きやすいような写真や事例が使われた方が良く思います。

宮原座長：ありがとうございます。

そろそろ時間にもなりますが、もう少し議論出来ると思いますけれども。

姥浦座長代理：細かいことですが、27ページに戻っていただいて、方針1・2と3は違うというのは書いてある通りだと思いますが、つながり方が1・2の取り組みを補い、効果を高めるためのものなのか。3に書いてあることは、他を補うものというよりは、こういうことを通じて交流の機会を促進したりだとか、ゆとりある環境を整備したりだとかということなのかな。補うというよりは、手段とかそういう位置づけなのかなという気がいたしました。

宮原座長：ありがとうございます。

他にいかがでしょう。色々、ご意見をいただいております。あちこちに飛んですみませんが、すごく皆さんから良いご意見が出ていると思います。中間案に向けてというところで、よろしいですか。

姥浦座長代理：だんだん感想になってきますが、先程宮原先生がおっしゃったガーデンは私もなかなか良いなと思いますので、30ページや31ページにもそれがわかるようにあるといいなという気がしました。具体的にどうなのと言われると、ちょっとよくわかりませんが。

宮原座長：ありがとうございました。

あと、岩間さんがおっしゃった具体的にどんな人がこのまちで暮らして、どんな活動があってという一つの具体的なイメージが書ければ、そこに色々なビジョンの中のものが出てくると思います。言葉だけで、字だけでやっていると、どうしても皆さん様々に解釈をしてしまうし、もちろん様々な可能性がありますけども、一方でこういうまちでこうだというところが、なかなか見えにくいというところもあるので、例え話で作ってみてもいいのではないのでしょうか。

例えば、30代とか40代の女性だったらこのエリアをどう楽しむか、どう楽しめるまちなのかというのは、すごく気になるし、活気があって、さっきおっしゃっていた乳母車を押した方とか、立町の方の人達や近くにお住まいのシニアの人達も、本当にここの定禅寺通、勾

当台のエリアに出てきて、1日楽しんでいくとかという具体的なイメージが欲しいですね。

毎週、大型ショッピングセンターに出かける、駅前に行って買物をするだけではなくて、それ以外の楽しみ方がこのエリアにあるということ。仙台に住んでいるからこそ、こういう楽しみ方、暮らし方ができるというところに、ここのエリアがしっかりとハマっていくというのが、とても大事だと思いました。

そろそろでしょうか。

今日もたくさんご意見いただきまして、本当に皆さん、ありがとうございました。

それでは、続きましてですが、その他のところでございます。委員の皆様から何かございますか。特によろしいですか。

今日も委員の皆さんから多くの意見が出ましたし、少し手を加えていただきたいところもありますので、また素案から中間案になる部分で、事務局にも取りまとめをよろしく願います。

これを持ちまして、第3回の勾当台エリアビジョン策定検討懇話会を閉会させていただきます。皆さん、ありがとうございました。お疲れ様でした。

全 委 員：ありがとうございました。

以上